文部科学省　平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」

TKK3大学連携プロジェクト

防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開

東北福祉大学 Tohoku Fukushi University　工学院大学 KOGAKUIN UNIVERSITY　神戸学院大学

TKK 連携センター開設記念シンポジウム

ー21世紀、社会貢献活動の担い手づくりをめざしてー

○日　時：平成21年12月13日㈰　13：00 ～ 16：30

○会　場：東北福祉大学　国見キャンパス内 けやきホール

○主　催：東北福祉大学　工学院大学　神戸学院大学

○共　催：河北新報社

○後　援：宮城県　仙台市　東北経済連合会　仙台商工会議所

○協　賛：コニカミノルタホールディングス㈱

プログラム

13：00　開会（取組担当者　渡辺信英　東北福祉大学学長補佐）

◆ Part 1　13：05 ～ 13：35

①３大学学長あいさつ

東北福祉大学学長　萩野浩基

神戸学院大学学長　岡田芳男

工学院大学学長　水野明哲

②祝辞

文部科学省　成相　圭二 様

仙台市長　奥山恵美子 様

◆ Part 2　13：35 ～ 14：45

学生の社会貢献活動報告

①神戸学院大学：高木洋輔（３年）神戸学院大学 学際教育機構

稲田靖子（３年）防災・社会貢献ユニットの取り組み

②工学院大学：濱野航平（Ｍ２）都心に建つ超高層キャンパスの地震防災について

海沼大樹（４年）大学を拠点とした地域減災体制の構築について

③東北福祉大学：ボランティアサークル５団体

「FAST」「Withボランティア」「ZERO」

「ピンチヒッター」「匠民（たくみん）」による地域での減災活動・

安全活動・子ども活動の取組み

（本学学生考案の減災体操の披露）

休憩10分（14：50 ～ 15：00）

◆ Part 3　15：00 ～ 16：30　パネルディスカッション「これからのTKKを考える」

●パネリスト

①TKK学び合い連携センター長　前林　清和（神戸学院大学教授）

②TKK助け合い連携センター長　久田　嘉章（工学院大学教授）

③TKK分かち合い連携センター長　小松　洋吉（東北福祉大学教授）

●アドバイザー

①古関　良行 氏（河北新報社記者）

②児島　　正 氏（株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント経営企画部部長）

③舩木　伸江 氏（神戸学院大学専任講師）

●３大学学生（１大学２名　計６名）

●フロアコメンテーター

①京　英次郎 氏（仙台市青葉消防署予防課長）

②小抜　　隆（東北福祉大学特任講師）

16：30　閉会

あ　い　さ　つ

取組担当者　渡辺信英（東北福祉大学　学長補佐）

本日ここに、三大学連携センター開設を記念して、シンポジウムを開催できますこと、誠に感慨深く、関係各位に感謝申し上げます。

とくに、神戸学院大学 前林教授、工学院大学 久田教授はじめ、両大学の皆さんには日頃の親しいご交流とご指導をいただき心から感謝申し上げます。

さて、このプログラムは「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」として119件の中から採択された39件の取組みの一つであります。

社会が変化するなかで、21世紀の社会づくり、国づくり、ひいては世界平和のために、一人ひとりの社会貢献活動が重要であることは言うまでもありません。本プロジェクトは全国が注目しております。河北新報10月10日付にはトップ記事として掲載いただき、また読売新聞11月29日付では１ページをさいて特集されております。こうした社会の期待に応えるべく、努力致してまいります。

関係各位におかれましては、この「社会貢献活動支援士」の育成に対して、ご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

ＴＫＫ分かち合い連携センター長　小松（こまつ）　洋吉（ようきち）

いま、こうして、３大学の知・技・想いの統合のもと、社会貢献教育という現代的意義ある領域に挑戦できますこと、大変うれしくまた誇りに存じます。

わが国の社会は少子・高齢化、グローバル化、価値観の多様化の中で、多種多様な問題が生じてきております。さらに、大規模災害の発生も懸念されております。これらを政府・行政の力だけで解決することはきわめて困難であります。「学び合い」「分かち合い」「助け合い」の精神に根ざしたわれわれ一人ひとりの活動・行動がいま求められています。

われわれ、ＴＫＫ連携センターは、他大学、関係団体機関、市民のアドバイスを仰ぎつつ、「社会貢献活動支援士」の育成に全力で取組んでまいります。そしてこれが、市民社会と一体化したシステムとして定着・機能すべく努めます。皆様からのご意見をいただければうれしく存じます。また、TKK連携センターにもどうぞ足をお運びください。

ＴＫＫ助け合い連携センター長　久田（ひさだ）　嘉章（よしあき）

このたび、文部科学省・2009年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の支援のもと、東北福祉大学（T）、神戸学院大学（K）との連携により、工学院大学（K）に「TKK助け合い連携センター」を開設いたしました。工学院大学は、社会の中核となる実践的な技術者・研究者を養成する教育機関として120年以上の歴史と実績を誇っております。地震防災・減災の分野でも本学キャンパスのある東京都・新宿区・八王子市などの自治体や、地域の事業者・住民と連携し、防災・減災教育・セミナーの実施、地域点検マップの作成、実践的な防災訓練の実施など、地域社会に根ざした様々な教育・研究活動を行っております。

当センターでは、東北福祉大学の「TKK分かち合い連携センター」、神戸学院大学の「TKK学び合い連携センター」と連携し、防災・減災に関する社会学・工学の授業とボランティア活動などの実践的な演習からなる教育プログラムを実施し、災害を防ぐための知識の習得だけでなく、広い視野と専門的な知識を持って災害現場などでボランティア活動にあたる担い手の育成を目的としています。さらに2012年には３大学連携による資格制度「社会貢献活動支援士」を設立し、将来的には他大学や社会人にも開放を予定しています。

連携プログラムは、３大学を結ぶ広域ネットワークによる遠隔授業と現地での集中講義・演習によって行われる予定です。さらに３大学のいずれかの地域で大規模な震災が発生した場合、ネットワークを生かして他大学センターは後方支援センターとなり、被災地でのボランティアなど社会貢献活動を実践する予定です。当センターは広域ネットワーク作りのための中核として位置づけられています。
皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ＴＫＫ学び合い連携センター長　前林（まえばやし）　清和（きよかず）

これからの社会は、社会貢献のマインド、つまり自分の幸せや利益を確保するとともに、他者の幸せや利益にも貢献するという「Win-Winの関係」の構築、持続可能な社会の形成が求められており、大学教育においても取り組むべき大きな課題です。

また、わが国は、地震や台風をはじめ大規模災害の危険性の高い国です。国家の危機管理という観点からも、学士過程における防災・社会貢献の体系的教育カリキュラムの構築が望まれるところです。特に、本学は阪神・淡路大震災を経験し、しかも３大学とも大規模地震が起こる可能性が非常に高い地域に立地しており、これまでも各々が防災や社会貢献に関する教育活動を積極的に行ってきました。

このような思想・状況・実績をふまえ、本プロジェクトは企画されたのです。

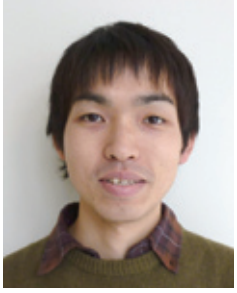
本学に設置される「TKK学び合い連携センター」では、主に遠隔授業システムを用いた３大学共通の専門カリキュラムを展開しつつ、最先端のFD・SD、教育プログラム、教材を開発して行きます。また、他のセンターとの連携から地域へのボランティア活動や最新の防災訓練を実施していきます。

３つのセンターが有機的に機能することで、「Win-Winの関係」を、地域に根ざしつつ、全国的に広げて行きたいと思っています。

学生の社会貢献活動報告

＜神戸学院大学＞

「神戸学院大学 学際教育機構 防災・社会貢献ユニットの取り組み」



高木（たかぎ）　洋輔（ようすけ）

人文学部人文学科
学際教育機構防災・
社会貢献ユニット３年

稲田（いなだ）　靖子（やすこ）

人文学部人文学科
学際教育機構防災・
社会貢献ユニット３年

防災・社会貢献ユニットでは、座学だけではなく学生が主体となる授業プログラムが多数あり、その分野は非常に幅が広いものとなっています。今回の発表はその中から具体的事例を取り上げ、防災や社会貢献について防災・社会貢献ユニットがどのように取り組んでいるかを発表したいと思います。

まず、防災・社会貢献ユニットとは、学部横断型の学際組織です。神戸学院大学の４学部から構成されています。所属する学生は防災や社会貢献といった専門的な知識や技術を学びます。そして、学んだことを生かした職業などに就いています。その防災・社会貢献ユニットでは、阪神淡路大震災から得た様々なことを学び、発信するということも行っています。防災を学生のみならず、地域住民または様々な人たちに知ってもらうことこそが、防災に必要なことであると考えられるからです。

そこで、防災・社会貢献ユニットでは防災教育を行う場が非常に多くなっています。これは主に学生主体の授業です。ユニット所属の学生が、地域住民や小中学生、または防災関係者、海外の人たちに授業を行います。防災教育を通じて、防災の必要性、または命の尊さなどを学ぶことが防災意識の向上につながると考えられます。学生たちが行う授業ですので、失敗などの反省点も存在します。そこから気づいたことをまた次の防災教育に生かし、改善改良を行い、より質の高い防災教育を発信することを目指しています。

ただ、防災教育を行っていく中で、授業や文献だけの知識では伝えることが難しいと思うことも多々あります。その具体例が、避難所での生活や非常持ち出し袋の存在でした。その悩みを解消するため、今春、避難所体験のキャンプを企画し、実施しました。「水が出ない」「トイレが使えない」「食糧が届かない」など災害が起こったことを想定しました。１人１人自分で考えた非常持ち出し袋を持ち寄り、２泊３日生活をしました。実際に体験することで見えたことを、防災教育を通して多くの人に伝えたいと思います。

また、防災・社会貢献ユニットでは、海外との交流も積極的に行っています。今年10月には、四川省訪問を行いました。この交流は去年から行っています。15年前に被災した神戸からの「思い」を届け、被災地の今を知るために訪問しました。現地では、防災を学ぶ学生と交流を行い、震災１年後にできた地震博物館を見学しました。被災した村にも訪問しました。訪問プログラムの中で、四川大地震から１年半の被災地を肌で感じました。ありのままの被災地を見ること、現地の人とのふれあいの中で、多くのことを学びました。

防災・社会貢献ユニットの今後の展望として、従来の防災や社会貢献の取り組みを継続させるとともに、３大学の協力を持ち寄り、より良い防災や社会貢献の協力体制を築き上げるということです。防災や社会貢献を考える上では、様々な人たちの協力は必要不可欠です。それぞれの大学が持つ強みや個性を共有し、そこから新しいものを生み出していくことがこれから必要になるのではないでしょうか。

＜工学院大学＞

「都心に建つ超高層キャンパスの地震防災について」

濱野（はまの）　航平（こうへい）

工学研究科建築学専攻　修士２年

近年、首都圏において30年以内に70％（50年内には90％）の確率でM7規模の直下型地震が発生すると予想されています。そこで一般の企業では、今年度に改正された消防法を考慮しつつ、事業継続計画＝BCP（Business Continuity Plan）を策定することが重要視されています。しかし、都心にある各大学のキャンパスでは災害発生時の事業継続計画は整備されておりません。また、都心の大学のキャンパスは高層であることが多く、より大きな被害が予想されることからも、対策が急務であると言えます。こういった背景から、工学院大学新宿キャンパスを対象に大地震発生時の防災体制の構築、及び事業継続計画の策定に向け、体制や計画の内容を検討し、提案することを目的に研究を行っています。

工学院大学では一昨年から防災体制の整備が進められ、これまでに新宿駅周辺の多数の機関が参加した大規模な地震防災訓練の実施、様々な企業の方を招いての新都心減災セミナーの開催といった活動を行ってきました。私は学生として、一昨年から様々な活動に参加させて頂き、関係機関の方々との会議・セミナーへの参加、防災訓練の企画・運営など、貴重な経験をさせて頂きました。そこから防災の知識だけでなく、企業・学校の責任者の考え方、大きな行事の計画・運営の方法、大勢の学生スタッフの統括としての役割など様々なことを学びました。こうした経験は自分の財産であり、学生生活や社会に出てからの活動に役立つものであると思います。

MEMO

＜工学院大学＞

「大学を拠点とした地域減災体制の構築について」

海沼（かいぬま）　大樹（だいき）
工学部建築学科４年

１．研究背景・目的

過去の事例の阪神・淡路大震災では、震災直後の応急対応の緊急活動を行う上で公的機関からの援助は難しく、自治体と地域住民による自助と共助の重要性が改めて認識された。このような背景のもと、工学院大学のキャンパス（新宿・八王子）の周辺地域である四谷地区（新宿区）、若松地区（新宿区）、中野町甲和会地区（八王子市）の3地区を対象に地域住民と自治体との協働による減災体制の構築を目的として研究を行っている。

２．活動内容

（１）四谷地区（新宿区）

まず、地域内の災害時における長所や問題点を明確にすることを目的とした防災ワークショップを実施し、この結果に基づいて、花園小学校を避難所とした地震防災訓練が実施された。今年度実施した訓練では発災対応訓練、滞留者対応訓練、情報収集･伝達訓練、避難所運営訓練、体験型訓練を行った。

（２）若松地区（新宿区）

昨年、防災ワークショップ・地震防災訓練を行ったので、今年度はその反省を生かした地震防災訓練を実施。今年度実施した訓練は発災対応訓練、災害時要援護者の安否確認、情報収集・伝達訓練、避難所運営訓練、体験型訓練を行った。

（３）中野町甲和会地区（八王子市）

昨年度に防災ワークショップを実施し、今年度は災害時において工学院大学との連携を円滑に行うために､平時からの関係作りを目的とした相互の行事への参加､懇親を深めるために親睦会などを行った。

３．学生として学んだこと

この研究活動を通して、企画するだけで終わるのではなく、住民と一緒に検証・点検していくので現場でしか味わえない大変さや企画通りには進まない中で自分自身の力で対応していくことの難しさなど様々なことを学んでいます。このような体験は社会にでても役に立つと思うので、今後の学生生活で様々なことを学びながら自分の将来に繋げていきたいです。

＜東北福祉大学＞

サークル名：救命ボランティアサークル「FAST」

代 表 者 名：澤村隆太（さわむらりゅうた）

救命ボランティアサークル「FAST」は、救命技術の普及、災害時や緊急時の支援の担い手となることを目的として、仙台市消防局の上級救命講習を受講したメンバーで2007年９月に結成しました。活動としては、関係機関と連携し、地域への出前講座、自分たちの技術向上のために各種講習の受講などを行っています。

出前講座では、私たちが一次救命（救急隊に引き継ぐまでの救命技術）に関する技術や知識を紹介して、その後地域住民の方に体験していただく形が多いのですが、みなさん熱心に受講してくださいます。ともに学び合うことによって、自分の知識の向上にもつながり、地域の人との交流も生まれます。出前講座を重ねる度に、救命の技術や知識を人に伝えていくことの難しさを痛感しています。救命講習は消防局などの公的機関も行っているので、私たちはそこで受講します。その中で講習を受ける際、技術・知識だけではなく、どのように教えれば伝わりやすいのかということを考えながら講座に臨んでいます。さらに私たちはプラスして、学生らしさを大切にした活動を展開していきたいと考えています。私たちが活動している宮城県仙台市では、宮城県沖地震が迫っており、市民ができることの一つとして救命技術の取得が挙げられると思いますので、今後もつながりを大切にしながら、地域がより強い結束を持ち、互いに助け合っていけるような活動をしていければと思います。

＜東北福祉大学＞

サークル名：「With ボランティア」

代 表 者 名：伊藤（いとう）　悠（ゆう）

宮城県では、今後30年以内に99％の確率で大規模な地震が起こると予想されています。しかし、いつ・どこで・どんな災害が起こるかわかりません。災害による被害を最小限に抑えるには日頃からの備えがとても重要です。そこで私たちは毎年次のような項目に重点を置き活動しています。

① 地域出前講座（学習会）
　地域の方々に防災・減災をより深く知っていただくため講師の方をお呼びし、各地に出向いて講座を行い、共に学び合う機会を創り出します。

② こども防災・減災キャンプ
　１泊２日のキャンプを通して子どもたちに実践的に防災・減災を体験していただきます。

③ 非常食開発
　この５年間で考えた「With流災害時非常食５か条」をもとに非常食を開発します。

④ コンテンツ開発
　防災・減災クイズや非常食レシピを紹介した冊子、レスキューゲームの開発を行います。

私たちは今年も中学校に出前講座という形で地震の怖さやその対処法を共に学び合い、夏には小学生を対象とした第３回防災・減災キャンプを開催しました。このような活動は市民や保護者の方々にも好評をいただき、「また来年も参加させたい」との声も多くいただきました。12月後半にも親子を対象とした防災ずきん作りや防災マップの作成を企画しています。来年も引き続きこのような活動を実施し、子どもの危機察知力、いざという時の対応力はもちろん、地域の方々にも防災・減災の知識を広げていきたいと思います。

＜東北福祉大学＞

サークル名：「TEAM　ZERO」

代 表 者 名：酒井奈月（さかい なつき）

現在、交通事故や犯罪件数は減少する傾向にはありますが、悪質な危険運転者や犯罪のハイテク化や凶悪化、それに薬物犯罪などが進み巧妙となっています。これらを予防するには警察や行政だけでなく、住民自身が地域を守る自発自治の時代になってきています。そこで、「TEAM　ZERO」は、2007年に設立し、犯罪０、交通事故０を目指し活動しているサークルです。主な取組として３つあります。

１つ目は、地域安心安全スクラム作戦です。これは毎月１日、15日の朝、国見町内会の方や警察の方と一緒に行う活動で、チラシ配りや声がけをして、交通安全、防犯を呼びかけています。

２つ目は、国見小学校さんと連携した防犯パトロール活動です。昨今、全国的に通り魔事件や声がけ犯など様々な事件が起きていて、国見小学校区域内においても、不審者の出没が頻発しています。そこで、地域の防犯活動の高揚を図るためにこの活動に参加させて頂き、安心安全に暮らせる地域づくりを目指して活動を行っています。

３つ目は、出前講座です。これは「絵を描く会」というサークルのみなさんに協力して頂き作成したZEROオリジナルの防犯紙芝居と防犯クイズを、小学校、児童館などで発表する活動です。子どもたちにもわかりやすく、楽しみながら防犯について学んでもらいたいと思い今年から始めた活動です。

これからも以上３つの活動を継続し、地域の安心安全に努めていきたいと思います。

MEMO

＜東北福祉大学＞

サークル名：「ピンチヒッター」

代 表 者 名：平山美穂（ひらやまみほ）

防災に関する活動に興味を持った学生が集まり、地域に密着した防災に関する活動を行うことを目的に、平成19年12月に発足しました。それ以前から団体メンバーが東北福祉大学地域減災センター主催の「減災カルタ大会」・非常食作り・「減災すごろく」作成の他、仙台市青葉区防災訓練や防災マップの作成、さらには東北福祉大学新潟県中越沖地震災害復旧支援ボランティアなどに参加しています。

東北福祉大学新潟県中越沖地震災害復旧支援ボランティアに参加し、現地の人々の話を聞いたところ、災害に備えて準備をしている人が少なく、そのため更なる防災に対する意識の向上を高めていく必要があるとの思いを強くもちました。そこで、防災を大人だけではなく子どもたちにも知ってもらうためのきっかけとなるツール作りや出前講座等を行ってきました。今後も引き続き、防災ツール作成を基盤とし、活動を行っていく予定です。

活 動 報 告

○東北福祉大学地域減災センター主催「減災カルタ大会」開催にあたり、ルールなどの考案
○仙台市青葉区防災訓練参加
○災害救援ボランティア実践訓練（キャンプ）参加
○非常食の試作・考案
○災害マップ作成
○新潟県中越沖地震災害復旧支援ボランティア参加
○減災フォーラム開催
○減災カルタ・サバメシの出前講座
○減災すごろく作成

MEMO

＜東北福祉大学＞

サークル名：「匠民（たくみん）」

代 表 者 名：高橋健太（たかはしけんた）

私たち匠民は東北福祉大学ボランティアセンター主催の「専門ボランティア養成講座」受講生が中心となり、2006年11月に設立され、2007年から活動を始めました。取組内容は子どもたちの体験活動の充実を図るものを行っています。具体的には、スポーツ（ニュースポーツ）、野菜の苗植え、写真立てづくり、竹とんぼづくりなど普段できないような活動をしています。このような「ものづくり」などの体験活動を通じた子どもたちの健全育成を目的としています。匠民のコンセプトは「ものづくりから夢づくり」です。ここから子どもたちの「自分づくり」を目指しています。様々な活動を通して年齢の違う子どもや他校の子どもたちと関わることで、コミュニケーション能力や物を交替で使うなど相手を思いやる気持ちを養うことができます。また、地域の子ども会などからの依頼を受け、外部に「出張たくみん」としておもちゃづくりやレクリエーションをしています。今年度の匠民の活動はキリン福祉財団様から支援をいただいています。助成金申請も私たちにとって大きな学びになっています。匠民での活動を通して自分たちの将来につながる活動をすることができます。子どもたちとともに学生の様々な活動を通じて成長することができます。

MEMO

パネルディスカッション

これからのTKK（東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学）を考える

シンポジスト　学び合い連携センター長　前林清和（神戸学院大学　教授）
助け合い連携センター長　久田嘉章（工学院大学　教授）
分かち合い連携センター長　小松洋吉（東北福祉大学　教授）

アドバイザー　古関　良行 氏（河北新報　編集局報道部　記者）
児島　　正 氏（株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント経営企画部　部長）
舩木　伸江 氏（神戸学院大学　学際教育機構　防災・社会貢献ユニット専任講師）

３大学学生　高木洋輔・稲田靖子・濱野航平・海沼大樹・澤村隆太・伊藤悠

〔プロフィール〕

■　アドバイザー

○古関（こせき）　良行（よしゆき）　河北新報　編集局報道部　記者

秋田県羽後町出身。秋田大学教育学部卒。1990年に河北新報社入社。福島総局、学芸部、酒田支局、生活文化部などを経て、2005年から栗原支局。08年の岩手・宮城内陸地震では、現地支局として災害報道に携わる。09年4月から報道部。著書に「飛島一人旅」（無明舎出版）。

○児島（こじま）　正（ただし）　株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント経営企画部　部長

首都圏直下地震に備えて、新宿駅周辺防災対策協議会、工学院大学、エステック街区による新宿新都心の防災まちづくりを裏方の一人としてお手伝い中。

震災の教訓が風化していくなかで、首都東京の顔である新宿で、阪神・淡路大震災の教訓を、一被災者として語り継ぎたい。

明日を担うこどもたちにも、防災の大切さを伝えたいと静岡で、04年6月に立ち上げた人形劇稲むら火の防災啓発活動を主導。国内外へ活動が広がる。

○舩木（ふなき）　伸江（のぶえ）　神戸学院大学　学際教育機構　防災・社会貢献ユニット専任講師。

ユニット開設当初から学生の防災教育の教材作成・防災教育の出前授業の指導に携わる。また、10月末に、学生と共に中国四川省へ。学生が被災地交流を行なってきた。

来年1月24日に神戸で行なわれるシンポジウム「阪神・淡路大震災と四川大地震からの教訓」に向けて、学生が主体的に関わり盛り上げていけるイベントにすべく、後押ししている。

MEMO

TKK分かち合い連携センター（東北福祉大学　国見キャンパス内）
〒981-8522　宮城県仙台市青葉区国見1丁目8-1
TEL：022-301-1314（直通）　FAX：022-717-3335

TKK助け合い連携センター（工学院大学　新宿キャンパス内）
〒136-8677　東京都新宿区西新宿1-24-2
TEL：03-3340-0167（直通）　FAX：03-3340-0954

TKK学び合い連携センター（神戸学院大学　ポートアイランドキャンパス内）
〒650-8586　兵庫県神戸市中央区港島1-1-3
TEL：078-974-4569（直通）　FAX：078-974-2549